

Point 129

507 (a) He said to me, "You will be sorry for it."

□□□ (b) He () me that () () be sorry for it.

〈四天王寺大〉

508 (a) He said to me, "Don't call me after ten."

□□□ (b) He told me () () call () after ten. 〈関西大〉

509 (a) He said to me, "Close the window, please."

□□□ (b) He () me () () the window. 〈岡山理大〉

Point 130

510 (a) He said to me, "Are you all right?"

□□□ (b) He () me () () () all right.

〈静岡理工科大〉

511 (a) He said to me, "Where did you buy the dictionary?"

□□□ (b) He () me where () () () the dictionary. 〈関東学院大〉

整理 46

話法の転換の原則

- 人称代名詞の変化—伝達者「私」から見て適当なものに変化させる。
- 時制の一致—伝達動詞が過去時制の場合、伝達内容の動詞は以下のように一致させる。
 - ①現在時制→過去時制(助動詞があれば助動詞を過去形に)
 - ②現在完了/過去時制→過去完了(had done)
- 指示代名詞・副詞などの変化—伝達動詞が過去時制の場合、次のように変化する。
 - ・ **this / these** → **that / those**
 - ・ **here** → **there**
 - ・ **now** → **then**
 - ・ **today** → **that day**
 - ・ **yesterday** → **the day before / the previous day**
 - ・ **last night** → **the night before / the previous night**
 - ・ **tomorrow** → **the next [following] day**
 - ・ **next week** → **the next [following] week**
 - ・ **... ago** → **... before**

507 (a) 彼は私に「君はそのことを後悔するよ」と言った。

(b) 彼は私に、私がそのことを後悔するだろうと言った。

Point 129 ； 平叙文と命令文の話法の転換

直接話法(設問の(a)の形)は発話者の言葉をそのまま伝えるのに対し、間接話法(設問の(b)の形)は他人の言葉を伝達者「私」の言葉に直して伝えるものである。最初に左頁の【整理46】で話法の転換の原則を確認しておこう。

507 平叙文の話法の転換

標準

▶ 平叙文の場合、伝達動詞は say だけであればそのまま say を用いるが、say to A の形であれば通例 tell A にする。伝達内容は that 節で表す。

508 命令文の話法の転換

標準

▶ 命令文の場合、tell A to do の形にし、伝達内容を不定詞で表す。否定の命令文は tell A not to do にする。

509 丁寧な命令文の話法の転換

標準

▶ please のついた丁寧な命令文の場合は、ask A to do の形にする。この ask は「Aに…するように頼む」の意味。丁寧な否定の命令文であれば、ask A not to do となる。

Point 130 ； 疑問文の話法の転換

510 疑問詞のない疑問文の話法の転換

標準

▶ 疑問文の伝達内容を間接話法にする場合は、伝達動詞は ask 「…を尋ねる」を用い、疑問詞のない普通の疑問文は if または whether 「…かどうか」で始まる節にする。つまり ask A if[whether]+S+V... の形にする。節内は平叙文の語順。

511 疑問詞のある疑問文の話法の転換

標準

▶ 疑問詞のある疑問文が伝達内容になっている場合は、ask A+疑問詞+S+V... の形にする。疑問詞の後は平叙文の語順。本問では、過去時制→過去完了にも注意。

508 (a) 彼は私に「10時以降は私に電話をしないでくれ」と言った。

(b) 彼は私に、10時以降は彼に電話をしないように言った。

509 (a) 彼は私に「窓を閉めてください」と言った。

(b) 彼は私に窓を閉めるように頼んだ。

510 (a) 彼は私に「だいじょうぶ？」と聞いた。

(b) 彼は私に、だいじょうぶかどうか尋ねた。

511 (a) 彼は私に「どこでその辞書を買ったの？」と聞いた。

(b) 彼は私に、私がどこでその辞書を買ったのか尋ねた。

507 told, I would 508 not to, him 509 asked, to close

510 asked, if[whether] I was 511 asked, I had bought

Point 131

512 (a) He said, "Let's take a rest."

□□□ (b) He () that () should take a rest. 〈岐阜大〉

513 (a) She said, "Shall we eat out today?"

□□□ (b) She () that () should eat out () ().
〈昭和薬大〉

514 (a) He said to me, "I am very busy. Please help me."

□□□ (b) He told me that () () very busy and asked
() () help (). 〈佛教大〉

512 (a) 彼は「休憩しましょう」と言った。

(b) 彼は、私たちが休憩することを提案した。

513 (a) 彼女は「今日は外食しましょうか」と言った。

(b) 彼女は、その日外食することを提案した。

514 (a) 彼は私に「とても忙しい。手伝ってください」と言った。

(b) 彼はとても忙しいと言い、そして私に手伝ってくれるよう頼んだ。

Point 131 : その他の注意すべき話法の転換

512 Let's の文の話法の転換

発展

- ▶ Let's で始まる文に代表される「提案」を表す文が伝達内容の場合は、**suggest[propose] (to A) that we (should) do ...**の形を用いる。
▶ suggest / propose の語法については Point 138 参照。

513 Shall we do ...? の文の話法の転換

発展

- ▶ Shall we do ...? / What do you say to doing? 「…ませんか」(→ 147) といった「提案・勧誘」を表す文の場合も、前問の Let's の文と同様に転換する。

514 伝達内容が2文の場合

標準

- ▶ 伝達内容が2文の場合、**同種**(たとえば平叙文と平叙文)の伝達内容なら伝達内容以下を内容に応じて and または but でつなげる。また**異種**(たとえば平叙文と疑問文)の伝達内容なら伝達動詞以下を and または but でつなげると考えておけばよい。本問の後半は please のある命令文となっていることに注意(→ 509)。